

市議会広報広聴委員会視察報告書

【視 察 日】令和7年1月29日（水）～30日（木）

【視察委員】八木勝委員長、大石心平副委員長、山本信行委員
深津寧子委員、川島美希子委員、薮崎正幸委員

【視 察 先】（1）神奈川県開成町 （2）茨城県取手市

【調査事項】1月29日 神奈川県開成町 議会だよりの刷新、議会動画について

①市の概要

開成町は、神奈川県西部の足柄上地区中央部に位置し、総面積は6.55k m²、人口は18,741人（R7.1.1時点）。東日本で1番小さな町であるが、人口が増加し続けており、平成27年から令和2年までの5年間の人口増加率は神奈川県1位である。

②取り組みの経緯・内容

「読む」から「見る＝魅せる」をモットーに、広報紙とウェブサイトの両輪で議会広報の改革に大胆に取り組んでいる。議会だよりはタブロイド判に変更し、斬新かつ凝縮された紙面になり、議会だよりについて市民からの賛否が届くようになった。さらに、読むウェブサイトから見るウェブサイトへ改革するため、議会独自のウェブサイトを開設した。インパクトのあるトップページから、2クリックで得たい情報にたどり着くように工夫したほか、議員の自己紹介動画、一般質問終了前、終了後のインタビュー、委員会報告など短い動画を多様に制作し、YouTubeチャンネルとリンクさせて配信している。YouTubeの再生回数がリアルな反応として実感が持てるようになった。議員ごとのデジタルスキルや理解に関しても差があったが、「習うより慣れろ」で進めてきた。これらの取り組みにより、全国町村議会表彰をはじめ様々な表彰を受け、全国から町議会等の視察が相次いでいる。

③今後の課題

YouTubeのアクセス数の増加が課題（チャンネル登録者約140人、ほとんどの動画の再生数は2ケタ）。また、動画編集でけん引役となっている事務局職員がおり、即興で今回の視察の様子を入れた藤枝市の紹介ムービーを作成していただいたほどのスキルをお持ちだったが、将来的に継続した取組としていくことが必要である。



④本市に反映できると思われる点

開成町議会は、見直す勇気も持ちながら、まずやってみるという姿勢で広報広聴活動が町民目線での活動になっているか、幅広い世代に関心を持ってもらえるかをポイントに改革に取り組んでいた。本市議会においても見てもらいやすい議会だよりのづくりや、動画を広報広聴の一つの手段として取り入れていくことなどを考えていきたい。

【調査事項】 1月30日 茨城県取手市

議会だよりについて、意見交換会及び SNS での情報発信について

①市の概要

取手市は、茨城県の南端に位置し、総面積は 69.94k m²、人口は 105,872 人（R7.1.1 時点）。東京、成田、つくばを結ぶ三角形のほぼ中央に位置していることから交通の要となっている。

取手市議会は議会改革度調査 2020、2021 で 2 年連続全国 1 位になるなど、先進的な取り組みで注目を集め、全国の議会から視察がされており、令和 4 年には藤枝市議会運営委員会が視察した。

②取り組みの経緯・内容

議会だよりは令和 2 年度より WEB 主体に切り替え、事務局職員がパワーポイントで作った概要版に議決結果等のみ掲載し、市内各所に配置するほか、希望する市民へ郵送している。WEB 版の議会だよりには、AI を活用して質問と答弁を要約した一般質問を掲載している。切り替えた際に、費用も削減でき、市民からの苦情はほとんどなかった。

意見交換会は複数会場での同時進行とし、オンラインも活用して全体で情報の共有ができるようにしている。さらに、中学生との協働事業として、中学校を訪問しての中学生とのグループワークを行い、代表となったグループは議場にて議案の説明を行い、他の中学生は YouTube でその様子を視聴し、投票を実施するなどリアルな議会を体験してもらっている。

SNS の活用として、各媒体にそれぞれ役割を定め、Facebook の投稿に YouTube のリンクを貼るなど、複数の SNS を結び付けて情報を発信している。

- ・Facebook：日頃、議会が行っている取り組みをほとんどすべて発信
- ・メルマガ：特に発信すべき議会の情報を発信
- ・X(Twitter)：本会議の議事進行を随時発信
- ・YouTube：本会議などの映像をライブ配信＆一般公開

③今後の課題

WEB の閲覧数など、市民の議会への関心を高めていくこと。

④本市に反映できると思われる点

現在のふじえだ市議会だよりは全戸配布としており、自治会・町内会の負担でもあることから、取手市議会の事例を参考に、議会だよりのペーパーレス化の検討を進めたい。

また、デジタルツールを活用した情報発信を積極的に行い、市民との距離を縮める工夫がされていた。藤枝市議会でも更なる SNS の工夫、HP の活用や動画配信に加え、学生などの若年層向けの取組も強化していきたいと考える。

